



ゆりのき

No.27 2026年6月30日発行



JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も公式 HP で閲覧できます。

TOPICS

- 教員インタビューリレー ● 第27回子育てサイエンス・カフェ開催レポート
- 第28回子育てサイエンス・カフェのお知らせ ● アンケートのお願い
- JWU 子育てサイエンス・ラボ メールマガジン子育て topic ● 心理相談室

Interview



教員インタビュー リレー

Vol. 7

様々な教員の研究内容や、JWU 子育てサイエンス・ラボでの活動をご紹介します。

Q.1 研究や専門について教えてください。

日本からアメリカへ移住した女性移民の研究をしています。19世紀末から20世紀初頭にかけて移住した「写真花嫁」と第二次世界大戦後のアメリカ占領をきっかけに移住した「戦争花嫁」のことです。「戦争花嫁」移民の方々は直接インタビューさせていただくことができたので、結婚、移住、子育て、アメリカ社会への順応などのお話を伺いました。これらの貴重なインタビュー記録は横浜の海外移住資料館に保管されています。



文学部 英文学科
准教授 土屋 智子

Q.2 研究を始めたきっかけはなんですか。

大学院時代に読んだ Caroline Chung Simpson の著書をきっかけに、占領を経てアメリカへわたる「戦争花嫁」移民について知りました。調べてみると「戦争花嫁」の女性たちがアメリカへ移住した後、親睦会を開催して定期的に集まっていることを知りました。ちょうどハワイで親睦会が開かれる年だったので参加させていただき、そこで知り合った女性たちにお話を聞かせていただいたのが研究を始めたきっかけです。

アメリカを「移民の国」と捉え、多様な人種や文化が存在する社会で、それらが共存し続けるプロセスを研究している。

Q.3 ご自身の研究が、実際の子育てや教育、社会の中でどのように活かされることを期待しますか。

「戦争花嫁」移民の方々が、自分自身だけでなく、家族や子どもたちの「居場所」を築こうと努力されていたことが非常に印象的でした。異なる文化や慣習の中で生活する際、相手の文化を受け入れながらも、自分の文化や価値観も伝えて、新しい生活スタイルを築いたのだと思います。新しい文化や価値観を楽しみながら共に築いてゆこうとする姿勢は、子育てや教育、さらには現代の社会生活においても活かされることだと思います。

Q.4 研究を大学での教育活動にどのように反映していますか？

歴史的な事象を、現代を生きる学生たちに伝えるのは難しい側面もありますが、インタビューやドキュメンタリー映画などの資料を活用しながら、異なる時代に生きた人々に関して理解し、学びを得られるよう工夫しています。近年では、俳優の奈緒さんとウエンツ瑛士さんによって舞台が上演されたり、TBS のドキュメンタリー映画祭で放映されたりしているので、学生が身近に感じて理解しやすい側面も紹介しています。

Q.5 「子育て」に関わる方々へメッセージをお願いします。

子育てに関しては、教えていただきたいことばかりですが、臨機応変であることや柔軟性が求められることだと思います。仕事と両立するケースも珍しくないと思うので、健康を大事にして一緒にがんばりましょう！



次回は人間社会学部教育学科 荻野 亮吾准教授をご紹介します。



はじめに

今回のカフェでは、こどもを育む環境について、「格差」の視点を入りに考えてみることにしました。私の専門とする社会教育の分野では、タテの関係だけでなく、ヨコやナナメの関係を重視しながら、地域の中に居場所や学びの機会を生み出していくことを大切にしています。今回は、この観点からこどもの遊びや学びの場をどうつくるかを考えてみました。



教育の格差論はどう展開してきたか

カフェの前半では、こどもを取り巻く格差をめぐる議論の流れを紹介しました。1990年代後半の学力低下論争をきっかけに、学力の格差が教育社会学の中心的研究テーマとして浮上します。その後、20年以上の研究の蓄積を経て、家庭環境が学力に影響を及ぼすことは広く知られるようになりました。

2000年代に入ると、OECD（経済協力開発機構）のキー・コンピテンシーの議論に代表されるように、非認知能力への関心が高まります。ここでいう非認知能力とは、主体性やグリット（やり抜く力）といった対自己能力と、コミュニケーション力や社会性といった対社会能力で構成され、人生に長期的な影響を与える力と考えられています。

近年では、非認知能力に影響を与える要因として、学校外の「体験」に注目が集まるようになりました。家庭の状況によって生じる「体験格差」は一種の社会問題にもなっていますが、その背景には、能力形成を競争的に捉える社会の論理が存在します。



遊びと学びの環境をどうつくるのか

体験格差の議論では、体験の量を重視しますが、体験の質についても考える必要があります。こどもたちの深い体験が生まれる場の条件を考えると、大人があらかじめ設計した環境でなく、こども自身が成功や失敗を繰り返せる場にこそ意味があります。そこには未知の自分と出会い、意味の世界を広げていける過程が含まれているからです。それでは、そのような場をどのように生み出せるでしょうか。

こどもたちが学び、遊ぶ場では、それぞれのもつ力に応じて、工夫できる余地を調整できることが重要になります。工夫の余地が小さすぎれば、自由に取り組みたいこどもたちの不満がたまり、反対に余地が大きすぎれば、どうしてよいかわからなくて不安や戸惑いが生まれるでしょう。このバランスを整えることで、不満や不安を軽減し、こどもたちの楽しさを引き出すことができます。

私の関わっている小学生を対象としたものづくりワークショップでは、制作の手がかりとなるカードを用意したり、大学生や高校生が話し合いのファシリテーションを担ったりすることで、こどもたちの主体的な学びを支えています。



地域における子どもの時間と場のつくり方

高度経済成長期以降、「三間の喪失」と言われるように、時間・空間・仲間という地域の「余白」が失われ、遊びや学びの場も大人が管理する傾向が強まっています。その結果、こどもたちの主体性を育む場や、試行錯誤の機会は失われつつあります。

これからのこどもの過ごす時間や場を考える上では、各地に広がるプレーパークのように、大人が管理者でなく、伴走者として関わる場づくりが重要となります。また、こどもと大人が、共に考え、楽しむ関係性の中で、地域をつかっていく視点も求められるでしょう。こどもを一方向的に支援するのではなく、共に学び、共に創る存在として関わるのが、大人の役割として改めて問われていると言えます。

(人間社会学部教育学科 准教授 荻野 亮吾)

【お知らせ】

第28回子育てサイエンス・カフェは7月25日(土)
詳しくは次のページをご覧ください！





次回の子育てサイエンス・カフェは！

オンライン講座
参加無料

第 28 回 子育てサイエンス・カフェ

よく噛んで食べる
今日から意識してみませんか



一生の健康につながる “よく噛む習慣”

子どものうちに育てたい



子どもの健やかな成長において、「よく噛む習慣」を身につけることはとても重要です。咀嚼は脳の働きを高め、食べ過ぎの予防や口腔機能の発達にも関わるなど、多くの効果が知られています。こうした習慣は大人になってからの健康にもつながるため、幼い頃から意識して育てていくことが大切です。

噛むことの意義を科学的な視点からわかりやすく解説し、家庭の食卓で取り入れやすい実践的な工夫など、楽しく食べる力を育むためのヒントをお伝えします。

日本女子大学食科学部栄養学科 准教授 こじょう あきこ 小城 明子

子どもから高齢者まで、人生のあらゆる段階で「食べる力」をどう育て、どう守るかを研究している。とくに、“噛める口づくり”や“よく噛む習慣づけ”をテーマに、食べ物の選び方や健康行動の理論からアプローチし、誰もが一生おいしく食べられるための食育の在り方を探究している。

日時 2026年 7/25 (土)
10:30~12:00

申込み

Zoom によるオンライン開催です。
ご自宅からお気軽にご参加ください。
カメラの ON・OFF はご自由に設定ください。

お申込み受付後、Zoom 詳細情報
をメールにてお送りします。



●どなたでもご参加いただけます。 ●参加費無料

<https://forms.office.com/r/nFn6AiKZqr>



JWU 子育てサイエンス・ラボよりアンケートのお願い

JWU 子育てサイエンス・ラボでは年間を通して、子育てサイエンス・カフェの開催のほか、メールマガジンでの情報発信やニュースレター「ゆりのき」を発行しています。今後、JWU 子育てサイエンス・ラボで行ってほしい企画や期待することについてご意見をお聞かせください。

アンケート回答はこちら ▶



子育てサイエンス・ラボについて





JWU 子育てサイエンス・ラボでは、子育て情報会員の皆さまにメールマガジンを発行し、子育てに関わる情報をお届けしています。なかでも【子育て topic】は、本学の様々な学科の教員が執筆しており、それぞれの専門分野で子育てにおいてヒントとなる情報をご提供しています。今回は、細井昭憲教授（建築デザイン学科）による【子育て topic15】（2023年7月発行）をご紹介します。

子育て情報会員のご登録はこちら



JWU 子育てサイエンス・ラボ メールマガジン第19号(2023年7月14日発行)【子育て topic】

【子育て topic15】～適度な汗かき体験を～ エアコンの賢い選び方・使い方

建築デザイン学部建築デザイン学科 教授 細井 昭憲

人の汗腺数は幼児期までの暴露環境に依存し、大人になってから増えることはありません。エアコンは確かに快適ですが、全く汗をかかない部屋ばかりに居ると、大人になってから暑さに弱い体になってしまう懸念があります。幼児期は汗疹が悪化しない程度に適度に汗をかき体験が必要です。また、人には暑熱順応の能力があります。これから夏に向かうシーズン、暑熱環境に暴露されると、徐々に汗腺機能が強化され、汗の量が増えます。その後さらに暑熱環境を経験すると、今度は重要な水分を失わないように汗の量を減らし、末端血流を増やして皮膚温度を上昇させることで人体から放熱できるようになります。このような過程を経ることで、暑さに強い体になります。エアコンは便利で快適ですが、人の本来の調節機能を阻害しないよう、使い過ぎには注意しましょう。

エアコンの賢い選び方と使い方のポイントは「ニュースレター〈ゆりのき〉(No.11)」にて詳しくご紹介▶



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

心理相談室のご案内



日本女子大学心理相談室では、地域の皆様の心の相談をお受けしています。

たとえば…



- 子どもの発達や成長が気になる
- 不登校、集団になじめない
- 子育ての悩み 対人関係、親子関係
- 気持ちを整理したい 自分の性格、将来・生き方
- 自分を見つめたい など

相談は完全予約制です。お電話でお申込みください。

日本女子大学 心理相談室 **03-5810-1507** (直通)

受付:火・木・金曜 9時～17時 / 水曜 10時～18時

土曜 9時～18時 (月曜・日曜・祝祭日は閉室)



日本女子大学 心理相談室



「JWU 子育てサイエンス・ラボ」を運営する社会連携教育センターの公式 SNS アカウントです。

